

現場で日常的に起こる問題を解決するための糸口となる1冊

「チェアサイドとラボサイドで共有したい

## 補綴再製をなくすための臨床テクニク 24」

近年CAD/CAMの普及、ジルコニア等の新しい歯科材料の出現に伴い補綴技工作業のシステムも大きく変わろうとしてきています。しかし、いくら新しいシステムが出てきても「基本」は一緒です。

\* \* \*

ある日のラボでの出来事……先生との電話でのやりとり。

先生「クラウンが全く入らないんだよ！再印象したから、やり直してね」  
歯科技工士「どのくらい入らないのですか？」

先生「少しきついとかのレベルじゃないんだよ」

歯科技工士「いつものようにちゃんと製作したのですが」

先生「今までと全然違うんだけど、新入社員に作らせたの？」

歯科技工士「いつものように私が担当しました。大変ご迷惑をお掛けしました。早急に製作させていただきます」

ラボサイドでは、マージンも鮮明に出ていたし支台歯の面荒れがなかったことも確認している。頭の中で「なぜなんだろう？」……なんだか腑に落ちないモヤモヤ感が漂っていた。

\* \* \*

このような出来事を経験されている歯科技工士さんは多いかと思います。

再製は、ラボにとって売り上げにつながりませんが、担当歯科技工士の仕事に対する意欲が一気に落ち込んでしまいます。このようなことが続くと先生との間の信頼もなくなり、歯科医院との取引が途絶えてしまうかもしれません。何よりも、補綴装置を心待ちにしていた患者さんをガッカリさせてしまいます。しかし、お互いにどうしてそうなったのかという現場検証をしない限り同じことの繰り返しになってしまい、再製を防ぐことができません。

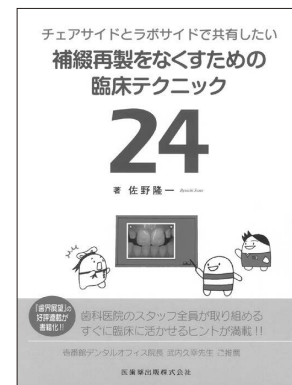
そこで役立つのが、日常でよくある再製に対しての様々な問題解決の糸口となる書籍である『補綴再製をなくすための臨床テクニク24』です。

本書の著者である佐野隆一氏は筆者と歯科技工士養成校の同窓で、24期下の後輩です。今から11年前に私が行っているセミナーに参加され、いつも「なぜ、どうして」等と質問をしていたのですが、その際に自身の考えを先に述べてから私の考えを聞くような、自分を持っている受講生でした。

当時は院内歯科技工士として勤務されていて、患者さんを目の前にしながら真剣に症例に向き合った臨床をしていました。自分が製作した補綴装置が患者さんに装着される現場を直に見ることによって、臨床というものを体感していったように思います。またその後、歯科メーカーに勤務して全国の歯科医院、ラボを訪れ様々な現場の声を聞き、視野を広くしていきました。

本書は現場で起こりやすい再製に関わる問題を、「適合」「咬合」「審美」「チーム」と大きく4つに分類しています。さらにそれらが24項目に細分されていて、チェアサイドでの“あるある”な出来事、それに対してのチェアサイド・ラボサイドでの取り組み方、具体的な対処法、検証、まとめという流れで要点を簡潔にまとめています。豊富な臨床写真を載せて誰もがわかりやすい現場を取り上げているのも秀逸です。写真を見るだけで「こういうことあるよね」と感じる方が多いと思います。

「適合」に関しては、印象&模型編としてチェアサイドで起こりがちなこと等を取り上げています。印象、模型は、私たち歯科技工士が間接法で製作する補綴装置の最も大事な要素です。それが適切でなければ、どんなに色調がマッチしていても口腔内に装着され



■佐野隆一 著  
■A4 判変カラー／120 頁  
■定価：6,400 円＋税  
■医歯薬出版株式会社 刊

ることはありません。再製をなくすための根幹ですので24項目のうちの10項目と多く紙面を割いています。

「咬合」に関しては、バイト&咬合器編として咬合調整量を減らす方法や、製作した補綴装置が生体、顎関節に調和するような咬合器の扱い方も述べられています。咬合を考慮し付与した咬合接触点やカービングが意味のないものにならないよう、誰もが理解しやすい記述で具体的に書かれています。

「審美」に関してはシェード&資料編として、歯科技工士が色調を再現するための具体的な写真の撮り方、環境や患者さんの要望等を含めた資料の実際が細かく書かれています。

「チーム」に関しては指示書&コミュニケーション編として、患者さん個々に異なる様々な症例に対しての具体的な指示のあり方を述べていますが、著者が最も伝えたいことが本章にあると思います。歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士がチームとして患者さんのためにそれぞれの持ち場で力を発揮するのに何が大事か、何が必要なのかを熱く訴えています。

本書は学術書ではありませんが、非常に読みやすい本になっています。新人からベテランまで、チェアサイドとより良い環境を作るために役立つ内容が満載です。ぜひ手にとってご覧あれ。

(東京都大田区・株式会社オーリアラ／吉澤和之)